

東京演劇集団風
代表 柳瀬太一 様
芸術監督 浅野佳成 様

社会福祉法人グロー前理事長 北岡賢剛氏による 性暴力・ハラスメント問題に関する 公開質問状

2025年1月24日

Dignity for All

—社会福祉法人役員による性暴力・ハラスメント裁判の原告を支える会—

私たちは「Dignity for All—社会福祉法人役員による性暴力・ハラスメント裁判の原告を支える会—」です。当会は、社会福祉法人グロー前理事長の北岡賢剛氏から性暴力などを受けた被害者を支えることを目的に活動しております。

2020年11月13日、北岡氏は、グロー元職員と社会福祉法人愛成会職員から、性暴力とハラスメントについて提訴されました。裁判の詳細は当会WEBサイトをご覧ください（<https://www.fnht.org/>）。福祉業界で大きな権力を持つ人物による、長年にわたって悪質な性加害やハラスメントは提訴当時から各メディアで報道されており、Change.orgでは1万6000筆を超える抗議の署名が集まり、社会に大きなショックを与えています。本件裁判は2024年10月24日に東京地方裁判所の判決が下り、二人の原告に対する北岡氏の性加害が全面的に事実認定されました。

近年、北岡氏は、貴団体が行うバリアフリー演劇で芸術監督を務めています。全国の小中学校等で公演が行われ、ポスターには、北岡氏が芸術監督として明示されており、会場に本人が登場することもあったようです。芸術分野での性加害が社会問題となっており、性加害した人物の関わりをどう判断するかは、団体の理念や方針が問われるものです。

貴団体の「ジャンヌ・ダルク」の演目について、ホームページの説明によると、「声をあげる機会の少ない世界中の若い人たちに、ひとりの少女が起こした〈奇跡の物語〉を、そして声をあげることの重要性を知ってほしい」という芸術監督 浅野佳成の呼びかけに答え、日本、フランス、モルドバ、3国の共同制作によって生まれたレパートリー（https://www.kaze-net.org/repertory/rep_jehanne）とあります。提訴以降の貴団体の対応は、勇気を出して声をあげた原告2人のことを無視したものであり、大きな矛盾を感じます。

提訴以降、貴団体は本件裁判に関する声明は一切発表しておらず、北岡氏の処遇にも変化が見られません。当会はこれを問題視しております。本件について、下記の点について質問状をお送りいたします。

1. 貴団体として、本件裁判で性被害を訴える原告2人がいながら、被告の北岡氏を芸術監督として活動させ、何も声明を出さなかったことについて問題はなかったのでしょうか。もし問題がないと判断されている場合、その理由をご説明ください。
2. 裁判では、北岡氏の性加害が全面的に事実認定される判決がおりましたが、今後も貴法人は、声明の発表等で見解の表明はされないのでしょうか。されない場合、その理由をご説明ください。

3. 北岡氏と貴団体との間で、本件裁判についてどのような認識のすり合わせがあったのでしょうか。
4. 性加害をした人物が芸術監督を務めること、それをポスターに明示して、全国の小中学校等で公演することに問題はないのでしょうか。
5. 今後も、北岡氏を芸術監督において公演を続けられるのでしょうか。

上記につきましては、2月7日(金)を目途にご回答いただきますようお願い申し上げます。
ご多忙のところ誠に恐縮ですが、重大な問題であるため、回答期限を設けさせていただきました。
尚、本質問状とそのご回答は当会のWEBサイトで公開し、メディア等にも発表いたします。

Dignity for All
一社会福祉法人役員による性暴力・ハラスメント裁判の原告を支える会
Email : info.fnht@gmail.com
WEB : <https://www.fnht.org/>
X : https://x.com/info_fnht
Facebook : <https://www.facebook.com/info.fnht>